



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2550

〒320-0066 宇都宮市駒生1丁目1番6号 コンセーレ (栃木県青年会館)
CONCERE 1-1-6 KOMANYU UTSUNOMIYA CITY TOCHIGI JAPAN 320-0066

(2015~2016) ROTARY CLUB OF UTSUNOMIYA SATSUKI

TEL 028-624-1417 FAX 028-624-1843 URL <http://www.facebook.com/satsukiRC>

宇都宮さつきロータリークラブ 会報

第 58 回 例会

日 時 : 2015 年 10 月 26 日 (月)

19 : 00 ~ 20 : 00

会 場 : コンセーレ

・開会 渡邊 正芳 SAA

・点鐘 夏目 公彦 会長

・ロータリーソング (我等の生業) 斉唱

・ビジター紹介 夏目 公彦 会長

メイク 安藤 英夫 (宇都宮 90 ロータリークラブ)

・会長挨拶 夏目 公彦 会長

今日は、久しぶりに滝川さんにお会いできて嬉しく思います。滝川さんから、スリランカに行かれた際の資料をお持ちいただきました。回覧しますのでご覧ください。

会長に就任して4ヶ月が過ぎました。何もやってないなという反省をしながら、残された月日をしっかり過ごしていきたいと思っています。

先週は、内部卓話で葆東さん、藤井さんに卓話をいただきました。本日は、石田さんにお話していただけます。宇都宮大学学長としていろいろご苦労もあると思われませんが、時間を長く取ってありますので、よろしく願いいたします。

・幹事報告 湯澤 敦史 幹事

・11月1日(日) 午後1時30分より地区ロータリ公共イメージ並びに会員増強セミナーが宇都宮グランドホテルで開催されます。出席者は、会長、幹事、和知会員増強委員長、齊藤広報副委員長にお願いしてあります。よろしくお願いいたします。

・11月2日(月)の例会は、宇都宮さつきロータリークラブ創立1周年記念パーティーです。

・委員会報告

・児玉 博利 会計

9月の水害に対する義捐金のお願いが各クラブに来ています。

一人1,000円総額26,000円を、ガバナー事務所へ振込みましたので報告いたします。

・池田 光一 親睦活動委員長

1年を振り返っての親睦会を行います。会場は、コンセーレ1階ロイヤルです。

午後6時受付、6時30分開会、会費は、4,000円です。よろしくお願いいたします。

・スマイル報告 滝川 悦子 副委員長

・渡邊 正芳 (宇都宮さつきRC) 湯澤幹事、全快おめでとうございます。お体大切に！！

・三森 富雄 (宇都宮さつきRC) 10月24日(土)、ついに高齢者の仲間入りをしました。アンチエイジング対策として、ワンダーコアを購入し、肉体改造に取り組んでいる今日この頃です。

・和知 孝道 (宇都宮さつきRC) 先週で本例会連続出席がとだえてしまいましたが、ほっとしています。石田学長の卓話楽しみにしております。

Be a gift to the world

世界へのプレゼントになろう

- ・齊藤 昇吾 (宇都宮さつきRC) 石田学長、本日の卓話楽しみにしております。
- ・石田 朋靖 (宇都宮さつきRC) 今日は、しょうもない卓話で失礼します。
- ・夏目 公彦 (宇都宮さつきRC) 滝川さん、無事にお帰り良かったです。石田さん、卓話楽しみにしています。

| | |
|------------------------------|------------|
| ・出席報告 | 滝川 悦子 出席委員 |
| 会員総数 26 名 出席 19 名 出席率 73,07% | |

| | |
|-------|----------|
| ・会員卓話 | 石田 朋康 会員 |
|-------|----------|

「一面的に物を見るのではなくて、多面的・複眼的に物を見る姿勢を身につける。

これが、環境問題に対する大切なこと」

学部で学生に教えていた頃、1年生に最初に話すはなし、そんな話をしたいと思います。

まずは、自己紹介をします。私は、群馬県で生まれまして本年度で61歳になります。山形大学から1992年に宇都宮大学に移ってきました。すぐに大学近くに家を購入、本籍も移して、宇都宮人になって23年、もう完全な宮っ子です。この4月から、学長もやらせていただいているのですが、最初は研究者の私もあったと言うことで、そんなお話をしたいと思います。今では里山なんて呼ばれていますが、私は山の中で自然と関わって育ってきたので、何となくそんな生き方がしたいなと思っていました。また、婆さんっ子でいつもよく言われたのが、『働くのは他人への奉仕、その対価としての給料があるよ』という事をわからないままに聞いていて、そんな事をしたいとも思っていました。

自然と関わりたいという事で、地球に興味が湧いたり、もう一つは砂漠のことを好きになりました。アラビアのロレンスという1961年のアカデミー賞を受賞した映画を見て、単純に砂漠って綺麗だなと思ったのが一つと、もう一つは本多勝一という人が書いた『アラビア遊牧民』という本を読んで、砂漠っていいなと思ったのが私の出発点です。そんなきっかけで砂漠の研究を始めたのですが、日本で研究をしても本当の意味でのモチベーションが湧かなかったのです。日本に砂漠がある訳でもないし、海外の人には勝てないなって思っていた時に、熱帯林の研究をやらないかと誘いを受けました。それで熱帯林について、熱帯林を切ったときに環境の変化が起こると、二酸化炭素がどうなるのか？温度の変化はどうなのか？そんな事をたまたま熱帯地方で研究する人がまだ少なかった事あって、1991年からタイをメインに研究していました。

その時に思ったこと、エコ商品が環境を守る、身の回りから地球問題を考えるというような話を今日はしようと思います。さて、滝川さんに質問です。家の中にある物を集めた写真です。これらに共通する事は何かと思いますか？『ココナツオイルを使っている！』

(滝川さん) その通り、さすがです。これらの物には、本当はココナツオイルではなくて、パームオイルという植物油が使われています。シャンプーやアイスクリームなどに含まれている植物性の油はほとんどがパーム油です。

そこで、アブラヤシからのエコ商品が実は環境を壊しているという話をします。椰子の木で有名なのは、ココナツ椰子ですね。あの実が成熟すると皮がたわしになったり、中の白い部分はココナツミルクとして使われている椰子ですが、ここではオイルパームに注目します。オイルパームの実は、たっぷりと油が含まれていて大体は東南アジアの国々で作られています。何に使われているかという、揚げ油やコーヒー用のクリーム、石鹸、洗剤、化粧品など、植物性の油と書いてある物はほとんどパーム油が使われています。では、なぜ人気があるのかと言うと、いくつかの理由があります。圧倒的に安いと言うこと、精製すると酸化しにくいこと、収穫が安定していること、収量も多いこと、熱帯の地域なら作りやすいこと、などがあげられます。一方で、消費者の観点からいくと環境に良いとか自然派志向などの観点で人気があります。

確かに、植物油は分解されやすく環境にやさしいです。また、近年カーボンニュートラルという二酸化炭素を減らす考え方も注目されています。しかし、実際はどうなのかと言うことで椰子の生産現場を見て行きたいと思います。アブラヤシは、熱帯の泥炭地で作ら

Be a gift to the world

世界へのプレゼントになろう

れています。もともとの泥炭地は真っ平らなべちゃべちゃした所で、原生林が一面に生えていたり蚊もいたりして使いにくい場所のため、熱帯林の中でも保存されていた場所でした。

私が主に仕事をしていたのは、タイの南部でしたが、1986年くらいから大きく開発が進められていました。そこでは、条件の悪い所でも育つアブラヤシを育てていました。アブラヤシを育て、実を採って出来るだけ早い段階で煮沸して酸化しないように分解を止めます。そして、24時間くらいで作業しないと良い油が取れないのです。実は畑の近くにこういった施設がないといけないというのが困ったことでした。さて、何が問題かという、一番は広い畑で栽培をする必要がある、そうすると先ほどのような湿地しかない訳です。そうすると大規模な伐採や焼畑が行われ、時には泥炭火災に繋がったりします。

世界中にいる動物や植物、大体2000万種くらいあると言われてはいますが、人間が知っているのは200万種くらいです。残りのまだ知られていない種類がどこにいるかというところは多くは熱帯林なのです。熱帯の木を燃やすことで、その様なものが消えてしまうと言う事です。もう一つは、何とんでも二酸化炭素の放出です。大体パーム油を生産するとき木を植えると、1年に15トンくらいの二酸化炭素を木が吸ってくれるのですが、実はそれと同時に下の水の中にあつた物を乾かしてしまうので、それをどんどん分解してしまうのです。また、その地域で火災が起きてしまったりして、平均すると60トンくらいの二酸化炭素が出てしまいます。その土地に何も手を付けなかったとしても、19トンくらいの二酸化炭素は吸ってくれるのです。これは、一体どっちが得かという話なのです。

では、どっちが得かというとお金のお話をします。1ヘクタール1年で3.5トンのパーム油になります。そうすると大体26万円くらいの収入になります。では、原生林としてそのまま放置した場合の事を考えたときの事を考えてみましょう。まだうまく行っていませんが、炭素税とか排出権取引という考え方があります。もし1トン当たり4,000円くらいで取引されると26万円くらいになります。排出権の話が始まった頃は、1トン1万円くらいで取引されていましたが、2008年には1,000円くらいにまでなってしまう、成り立たなくなっています。こんな現状がある中で、現地の人に熱帯を守れと言っても、その人たちにも生活がある訳です。

学生に向けての話なのですがどんな話をしているかというと、今行われている事が本当に環境にいいのか優しいのか解らないですねという話です。豊かさを求めていきますが、どちらにバランスを取っていくのかは国や他人が決めるのではなく、個人の価値判断です。あなたは、どのように考えますか？ぜひ考えて下さい！という話です。結論として言っていることは、一面的に物を見るのではなくて、多面的・複眼的に物を見る姿勢を身につけてください。それがとても大切なのですよ！という事です。Think globally! Act locally! 地球規模で物を考えて、身近な所から行動を始めましょうというのが、まさにこんな所にもありますね！



・ 点鐘

夏目 公彦 会長

・ 閉会

渡邊 正芳 SAA

Be a gift to the world
世界へのプレゼントになろう